

ハイドロライズ型 ピッチコントロール剤 ニッカソルト PCシリーズ

ピッチの元凶となる樹脂を
分解するピッチコントロール剤！

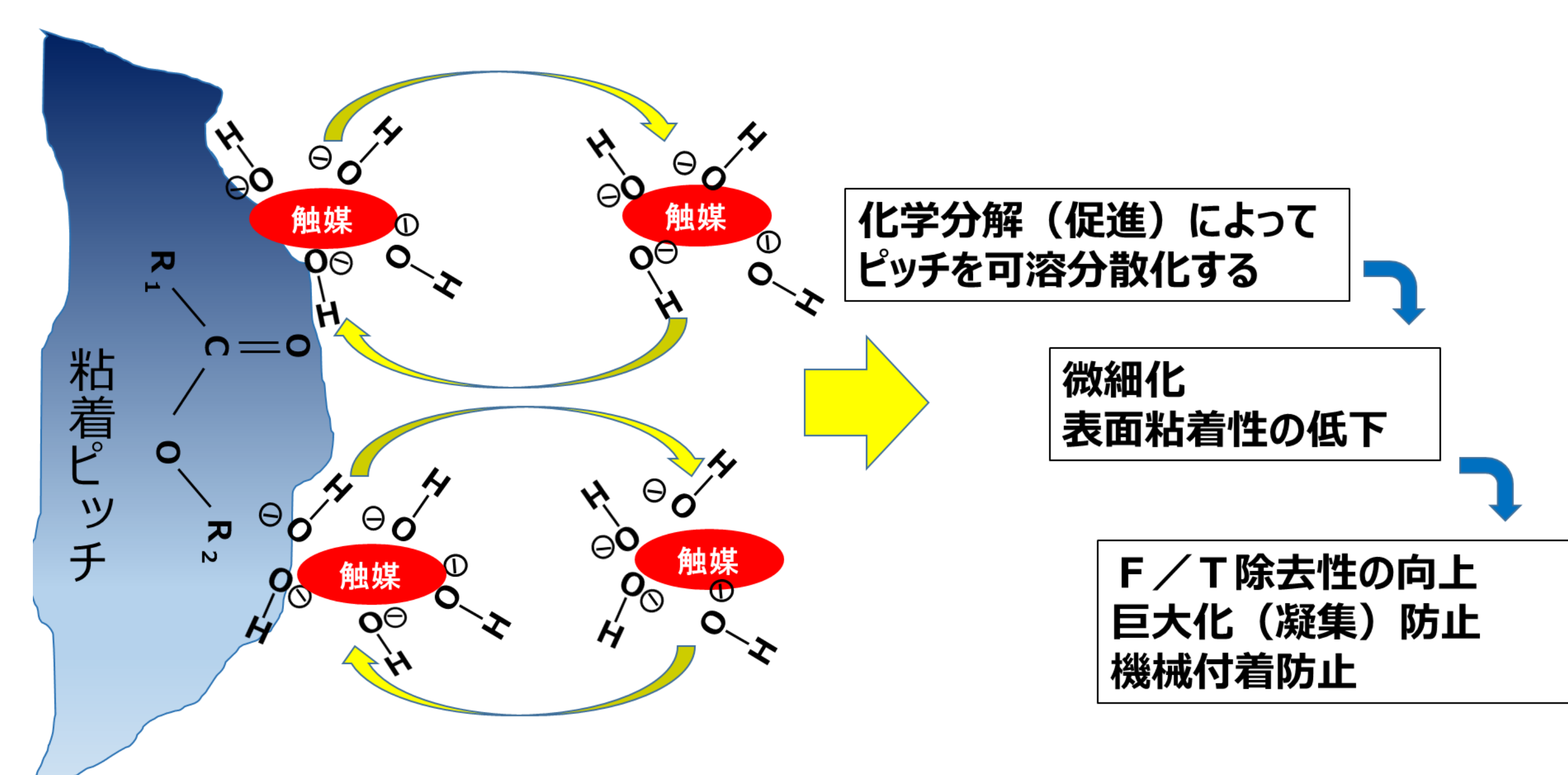
- ピッチの巨大化を防止・抑制する
- 粘着物を分散・可溶化し、パルプ・紙製造装置への付着を防止する
- 従来品と比較して、ピッチ分解効果が更に向上

これまでのピッチコントロール剤との違い

ピッチ対応方法	従来法	ハイドロライズ法（触媒科学）
可溶分散する	界面活性剤・溶剤など <問題点> ピッチは分解せずそのままの状態が存在している 再析出、再凝集して巨大ピッチが発生する	<特長> 触媒の存在により常にピッチは分解する方向で働き 巨大化しない
凝集して除去	高分子化合物など <問題点> 微細化できず、除去できない 凝集した巨大ピッチが残留	<特長> ピッチを分解微細化 フローテーション・洗浄においてピッチ除去
粘着性を低下	無機物（タルクなど）での被覆 <問題点> ピッチの目詰まり 無機汚れの発生 再生パルプの品質低下	<特長> 機械へのピッチ汚れの抑制 汚れ付着防止による品質維持

更に中性～塩基性条件でも使用可能

触媒機構



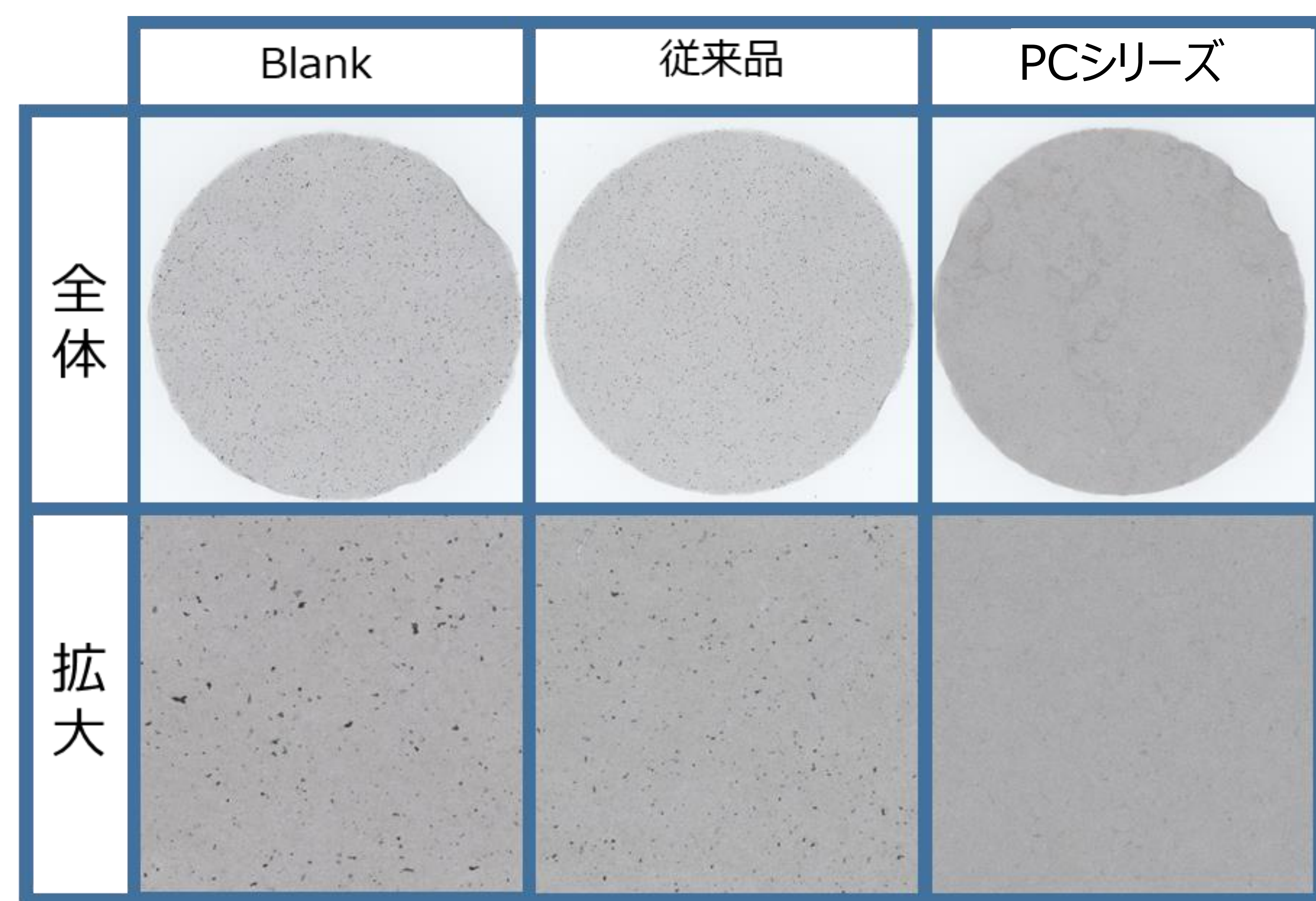
粘着ピッチの分解促進効果を発揮！

樹脂ピッチの分解試験

ピッチコントロール試験

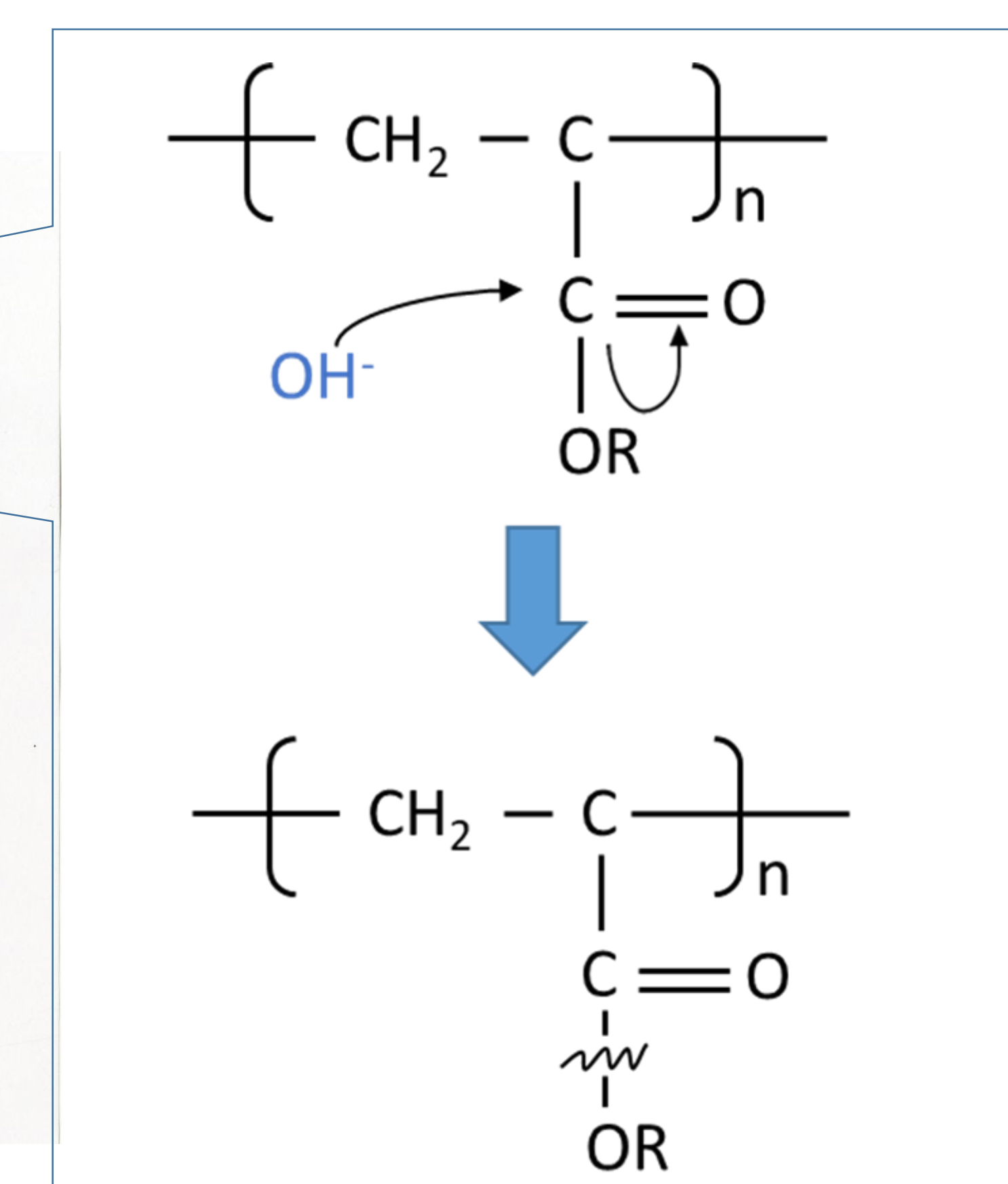
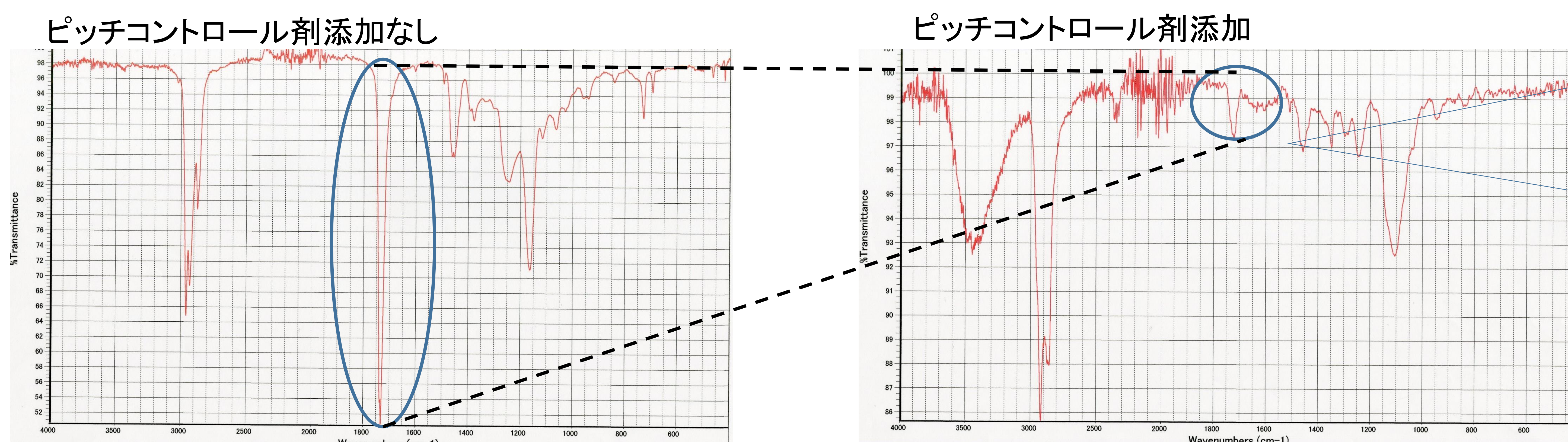
チラシ古紙 120g
ピッチコントロール剤
↓
離解条件 50℃×1時間 高濃度パルパーを使用
↓
手抄き紙作成 ダート個数、面積率を測定

ピッチ元(宅配伝票) 対パルプ 3%
①ブランク(NaOH 1%, 脱墨剤 0.05%)
②ピッチコントロール剤
(ピッチコントロール剤 0.3%, NaOH 1.0%, 脱墨剤 0.05%)



離解工程でほぼすべてのピッチを除去

ピッチ分解時のIR分析



宅配伝票に含まれるエステル基が分解

エステルの分解機構